

## 図書紹介

### 佐藤学『教師たちの挑戦』 授業を創る 学びが変わる

小学館、2003年、四六版、247頁、1400円

吉田 武雄

『総合教育技術』（小学館）に2001年から2003年にわたり連載したもので、数冊のシリーズの一つである。佐藤学さんは、東京大学院教育学研究科教授。他に『学校の挑戦』『教師花伝書』の二冊が、三井富士夫さん（研究所の監事）から研究所が若い教師達との接点を得るために薦められた。三冊一読し、可能性は大とみた。

#### 授業改革の静かな革命の進行は世界的

キーワードは、教師が「聴く」「つなぐ」「共に学ぶ」である。子どものつぶやきでも徹底的に聴く、それを教室の子どもにつなぐ、それらを子どもと教師の頭脳で考え

あう。算数の計算式と文章題、国語の詩の鑑賞、理科で水の沸騰などその具体例が活写されている。

これは一クラス四〇人では非効率で不可能かもしれない。幸い三〇人以下学級は、東京都を除いて普及している。その条件が生み出した側面もある。ヨーロッパ諸国は二〇人クラスが普通であり、著名なフィンランドの学習も基本は学び合いで高い学力を育成している。

本書のV章は、学び合う教室の創造―海外から―で北イタリアのレッジョ・エミリア市の幼児教室、メキシコの小学校、ボストンの小さな学校、パリ郊外の小学校、ケ

ンブリッジ市の小さな学校などの子ども達が、いきいきと描写されている。

#### 新潟県の教師も登場して

長岡市黒条小学校五年一組の調べる活動が詳細に描かれて、地域の精密工業と中小零細企業の熟練工の姿など横山直子教諭の実践が評価されている（99年に7年ぶりに訪問して）。また同校の小林教子さんの算数の「比」の勉強（6年）で、その学習が苦手の子どもを中軸に四種類の解法が協同の探求で解かれる（p58）。

どの教室にもいる、その教科が不得意が溶けこめない子どもらが、学び合いの中で認識が深化するのが感動的に述べられていて、小説的面白さがある。

新卒数ヶ月の教師、期限付講師の実践も著者は研究者として謙虚に学んでいる。創造的思考、批判的思考、コミュニケーション能力、探求的学びを求めて。（所員）